

4段階評価 「4」～期待以上 「3」～ほぼ期待どおり 「2」～やや期待を下回る 「1」～改善を要する

評価項目	評価指標	具体的目標	方策・手立て	自己評価	評価コメント
知 関 する	1. 「読み」「書き」「計算」「話すこと」の到達目標を基に、基礎学力の向上を図る。	○ 学期ごとの観点別評価で「おおむね達成」と評価できる児童が80%以上を達成する。	○ 朝の時間や授業において、教科書やその他の教材を大きな声で継続的に読ませる取組を通して、国語の教科書を決められた時間内にすらすら読める児童の育成を目指す。 ○ 朝の時間や授業において、計算プリントを繰り返させ、100マス計算を時間内に正確にできる児童の育成を目指す。 ○ 朝に読書の時間を設定し、読書を奨励しながら、学年の目標冊数（低80冊、中60冊、高40冊）を読む児童の育成を目指す。	2	<p><達成率>75%</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 朝の時間に音読や計算、読書をするようにした。読んだり計算したりすることが、早く正確にできる児童が増えてきた。 ○ 読書については目標冊数を達成できる児童100%を目指したが、現段階で100%に届かない状況にある。児童が本に触れる手立てを継続中である。 ○ 目標達成のために、左記の手立てに加え、これからのまとめの時期に、基礎的な読みや計算の練習を繰り返していききたい。
		○ 各学年ごとに必要な家庭学習の時間を80%以上の子どもが達成する。	○ 参観日の懇談会で、串間市の「家庭学習の手引き」を活用しながら、家庭学習の大切さや目安時間を保護者に説明し、協力を得られるようにする。 ○ 生活の記録「くすのきっこ」を全校で活用し、保護者が家庭学習の状況を毎日確認できるようにする。	3	<p><達成率>80%</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 高学年になるにつれて達成率が低くなる。授業の中でも串間市の手引きを活用した指導を行っていききたい。現在高学年は、中学校への接続も考慮して、自学の内容についてもアドバイスをしている。 ○ 担任による本人への指導や家庭への呼びかけも行っているが、改善は十分でない。さらに継続し、家庭学習に対して、高い意識をもたせていききたい。

評価項目	評価指標	具体的目標	方策・手立て	自己評価	評価コメント
徳 関 する 内 容	1. 基本的な生活習慣や社会的マナー・エチケットを身に付けた子どもの育成を図る。	○ 誰にでも明るく元気の良いあいさつができる子どもの割合が85%以上を目指す。 ○ 返事ができる子どもの割合が85%以上を目指す。	○ 「大東小の当たり前」について具体的に場面を提示しながら繰り返し指導する。 ○ 3校合同研修会で話し合った決まりの一つである返事について繰り返し指導する。	3	<p><達成率>あいさつ80%</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 全体的によくなったが、個人差がある。教師の方からも積極的にあいさつをしていきたい。 <p><達成率>返事76%</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ その日の状態や気分によって、返事の様子にムラがある。また、学年間でも差が見られる。徹底した継続指導を行っている学年は返事がよいので、全校でもっと力を入れていきたい。
		○ 相手に対し思いやりのある言葉遣いができる子ども	○ 「くん・さん」などの優しい言葉を遣うよう学級活動や全体の指導の場で重点的に指導する。	1	<p><達成率>40%</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 友達間での馴れ合いが強く、呼び捨てや乱暴な言葉が見られる。児童の意識調査でも、言葉づかいの面での達成

		の割合が80%以上を目指す。		率は39%であった。集会等の全体の場で繰り返し指導するとともに、人権週間を設け、学級活動を中心に、学校全体で集中して人権教育に取り組んで行く。
2. 自ら考え、進んで行動し、何事にも積極的に取り組む子どもの育成を図る。	○ 学校行事等に主体的に活動するとともに、委員会活動や係活動に積極的に取り組める子どもの割合85%以上を目指す	○ 児童の意欲を高めるために、係や当番、委員会活動における活動に対して、見届けや評価を適切に行う。 ○ 学期末に「スーパーハート賞」の時間を設定し、進んでよい行いをしたり、何事にも積極的に取り組んだりする児童を表彰する。	3	<達成率>80% ○ 当番活動や委員会活動は、ほとんどの児童が一生懸命取り組む。児童全体の意識調査では75%の達成率であったが、教師の評価を踏まえると80%の達成率である。今後は、活動に対して、児童が自己決定をする場を与えながら、もっと主体的に活動できるようにしていきたい。

評価項目	評価指標	具体的目標	方策・手立て	自己評価	評価コメント
体	1. 体力向上プランに基づき、年間を通して主体的に体力を向上させようとする態度の育成を図る。	○ 体カテストの判定結果において、5種目で全国平均を上回る。	大東小 ○ 体育の授業等において、主運動のためのパワーアップタイムの位置付けを行う。 ○ 体育の授業に関する資料を職員に配付したり、職員研修を行ったりする。	3	<達成率> 学年平均 男子3.5項目 学年平均 女子6.3項目 全体 4.9項目 ○ 体育の時間にパワーアップ運動をしたり、以前からの持久走や縄跳びの取組の成果がでていていると考える。 ○ 体育に関する研修を今後実施していきたい。
内	2. 給食時の食育指導を通して、好き嫌いのない食生活を送ることができるようにする。	○ 「食べ残し0」週間を設け、期間中の残菜0の日の割合が80%を目指す。	大東小 ○ 栄養教諭と連携した授業を全学級実施し、食に関する指導の充実を図る。 ○ 「給食マルモリ週間」を設定し、個人に応じた適切な量をしっかりと食べるように、各学級で重点的に指導する。	4	<達成率>90% ○ 個に応じた食べる量の調整や、「給食マルモリ週間」での自己評価により、給食をしっかりと食べるようになってきている。100%の学級も増えてきた。 ○ 栄養教諭と連携した授業は、食の大切さを知る上で、大変有意義であった。
家庭や地域との連携に関する内容	2. 家庭や地域と連携して、「早寝・早起き・朝ご飯」「弁当の日」等の運動を通して、子ども達の健全育成に努める。	○ 「朝ご飯」を食べて登校する子どもの割合が100%を目指し、かつ「栄養バランスのとれた朝ご飯摂取」の意識啓発に努める。 ○ 「弁当の日」を設定し、100%の児童・生徒が弁当の日に取り組む。	大東小 ○ 食に関する意識を高めるために、学校保健委員会などを通して家庭との連携を図る。 ○ 年3回の「弁当の日」を設定し、ワークシートに取組について書かせ、校内に掲示し、児童の意欲を高める。	3	<達成率>朝ご飯98% ○ 講師を招いて食育授業を行ったり、学校保健委員会で食育を取り上げたりしたことは非常に有意義であった。できれば100%を達成するために、個別の働きかけをしていきたい。 <達成率>弁当の日90% ○ 「弁当の日」もずいぶん定着してきた。児童の意欲の高まりを実感できるのはこれからだ、この取組を続けることで、保護者、子どもたちの意識の変容につながっていくと考える。